議会だより 第42号

内子町議会議員研修会

1月24日、内子町議会議員16人が出席し、「介護保険事業計画」（小規模多機能型居宅介護事業を含む）について研修を行いました。

介護保険「小規模多機能型居宅介護事業」とは

文教厚生常任委員　森並隆幸（たかゆき）

小規模多機能型居宅介護事業は、地域密着型介護サービスの一つで、利用者に対して「通い」「訪問」「泊まり」のサービスを一体的に提供する介護効果の高いサービスです。

現在、内子町には同事業がないため町民の皆さんはこのサービスを利用することはできません。しかし今、市町管轄の地域密着サービスとして、県内各地で事業の検討・実施が進められています。

介護保険の意義・目的の中には、「利用者が自分に合った介護サービスを自由に選べる」ということもあると思います。

小規模多機能型居宅介護事業は、在宅介護施設を拠点として、介護が必要となった高齢者が住み慣れた家や地域での生活を続けられるように、「通い」を中心に、利用者の状態や希望に応じて「訪問」や「泊まり」などを組み合わせ、24時間・365日切れ目なく暮らしを支えるサービスを提供します。これにより、介護認定度に左右されることなく、重度化しても、住み慣れた場所で、本人の役割や地域との関係を維持しながら人生を全うすることが可能となります。

◉小規模多機能型居宅介護事業の機能と特徴

(1)「通い」　在宅での暮らしを支える基本となる機能で、介護者が利用者一人一人の個性を見極めその人に合った支援を提供します。

(2)「宿泊」　日ごろ「通い」のサービスを利用しているのと同じなじみの場所に泊まることができ、同一スタッフの対応が可能です。「通い」の延長にある機能と考えられます。

(3)「訪問」　これまでの訪問介護とは違い、「通い」や「宿泊」と同じスタッフが訪問し、継続的に利用者と関わります。

(4)「ケアマネジメント」　ケアプランの作成はもちろん、事業所の機能を柔軟に組み合わせ、医療機関とも連携を取りながら、本人と家族だけでなく地域や友人・知人などとの関係を大切にした利用計画を提案します。

同事業は地域密着型介護サービスであるため、原則として、利用は事業所と同じ町内に住む人を対象とします。また、事前に登録が必要です。1事業所の登録定員25人で、1日当たりの「通い」の利用者は15人以下、「泊まり」は5～9人が上限となっています。

昨今の介護を取り巻く状況や介護施設の実態などを踏まえた上で、福祉政策の向上や介護事業の充実を図るために、内子町としても、23年度に見直しが行われる「内子町高齢者保健福祉計画」「第5期介護保険事業計画」の中で検討を進めてほしいと思います。

介護保険事業計画の見直しに当たって

文教厚生常任委員　宮岡徳男（とくお）

平成12年4月に「介護の社会化」をうたってスタートした介護保険制度は、3年ごとに事業計画の見直しが行われ、現在は第4期事業計画が進行中です。23年度はこの第4期事業計画の最終年度であり、24年度から始まる第5期計画へ向けての見直しの年でもあります。また介護保険法で定められている「10年経過時の制度の見直し」も行われます。

第4期事業計画は21～23年度の3年間の計画です。今期は、65歳以上の高齢者の全体数は増えないものの、75歳以上の後期高齢者の割合が増えることから介護度が上がり、必然的に給付費が増加しています。また、特別養護老人ホームが満床となり多くの待機者がいることなどから、大瀬地区と小田地区に合わせて3ユニットのグループホームを整備したことが、介護保険料の大幅な値上げにつながっています。

このようにサービスの充実や高齢者人口の増加がそのまま保険料の引き上げにつながる制度の在り方は、社会保障制度とは相いれないと考えます。

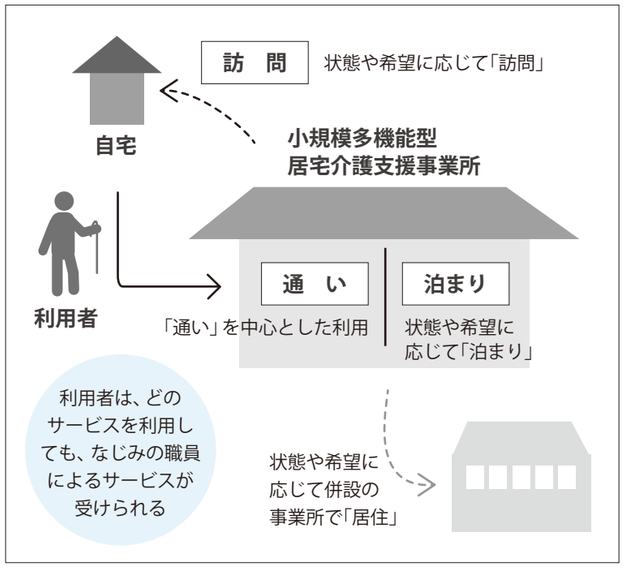
特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型病床群などの施設サービスは、利用者が多く、重度の要介護者に配慮した利用が促される一方で、待機者を解消するための改善が求められています。また、国民健康保険税や後期高齢者保険料の負担の増加と重なって、介護保険料や利用料の負担が低所得者にとっては限界にきていることも、現実的な問題として表面化しています。これらは21年度内子町介護保険事業特別会計の決算で保険料の滞納額が急激に増えていることや、経済的な理由で介護サービスを限度額まで利用できない高齢者が増えていることからも伺えます。

介護を支える側では、介護職員の30パーセント近くが年収100万円未満という調査結果もあり、介護現場の人材難につながっています。このような職員の犠牲の上に介護保険制度が成り立っているとしたら、人間を大切にするという発想は生まれてこないでしょう。

今年は制度発足から10年目の見直しの年です。高齢者が安心して必要な介護を受けることのできる制度となるように、立場を超えて声を上げ、協力して運動を進めることが求められているのではないでしょうか。

■小規模多機能型居宅介護事業のねらい

…「通い」を中心に、要介護者の状態や希望に応じて「訪問」や「泊まり」を組み合わせてサービスを提供することで、介護度が変わっても在宅での生活が継続できるように支援する。



■高齢者人口推計

［内子町高齢者保健福祉計画・第4期介護保険事業計画　抜粋］　（単位：人）

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
第1号被保険者	6,381	6,323	6,265	6,210	6,232	6,254	6,276
65～69歳	1,281	1,242	1,203	1,167	1,257	1,347	1,437
70～74歳	1,387	1,346	1,305	1,265	1,229	1,193	1,157
75～79歳	1,421	1,374	1,327	1,281	1,246	1,211	1,176
80～84歳	1,173	1,190	1,207	1,224	1,186	1,148	1,110
85歳以上	1,119	1,171	1,223	1,273	1,314	1,355	1,396
第2号被保険者 40～64歳	6,284	6,208	6,132	6,057	5,901	5,745	5,589
合　計	12,665	12,531	12,397	12,267	12,133	11,999	11,865